

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170504062), 法人名 (社会福祉法人 ノテ福祉会), 事業所名 (グループホーム「ごきげん」福祉 2階), 所在地 (札幌市豊平区福住2条9丁目1-32), 自己評価作成日 (平成26年12月1日), 評価結果市町村受理日 (平成27年3月20日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が住宅街の中にあり、静かな環境で生活ができています。また、面会に来てくださるご家族も多く、気軽に立ち寄れるホームを実践しております。さらに、法人内での研修が充実しており(感染症や認知症の基礎知識、安全運転講習、介護技術等)、職員には積極的に参加してもらっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成26年12月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1)ホームの環境
羊が丘の台地の閑静な住宅街、公園も近く環境が良い。
介護機能等の設備を囲むように居室を配置、生活に至便で安全な状況にある。
2)職員の介護態度
真摯に利用者に対して、よく聴き、応えた支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	8月の合同会議にて、理念を確認している。	”利用者の穏やかで楽しい生活、個々の思い受け止め寄り添い、地域の支えのあるホームを目指す。”この事業所理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、町内会のお祭りに参加しているほか、花壇の土おこしや花植えにも参加している。今後は、入居者も参加できることを見つけていきたい。	職員は地域祭りや花壇作り等に参加、利用者支援での地域連携に努め、地域の中学校の体験学習等に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣中学校の体験学習(ボランティア体験)を受け入れている。今後はもっと地域の人々に向けて活かせる事を考えたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や包括支援センターのスタッフに参加してもらい、報告や話し合いを行っている。	会議には運状況のデータ等を示し、同じ建物内の小規模多機能等と共催するなど定期的に開催を工夫し、参加者の意見を運営に反映し、家族に報告している。	包括支援センター、地域関係者、家族などの参加を促す会議となるよう、なお、関係調整についてご努力を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に相談することはあるが、連絡を密に取っているとは言えない。	管理者、ケアマネジャーの役割りに応じて、利用者支援に繋がる区役所、包括支援センター等との連絡を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の合同会議にて、身体拘束について確認しているほか、新規のスタッフには法人の採用時研修に参加してもらい、身体拘束について学んでいる。	職員はサービス指定基準、虐待、権利擁護等の基本的理解を基に、共有した利用者対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の合同会議にて、高齢者虐待について学んでいる。また、新規のスタッフには法人の採用時研修に参加してもらい、高齢者虐待について学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は社外研修にて学ぶ機会はあるも、職員については限られた職員しか学べていない。今後、支援事業や成年後見制度の利用の必要性がある方がいれば随時対応していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と口頭で説明し、了解を得ている。不安や疑問点も随時聞いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に様子を伝える際やケアプラン説明時に、要望等が無いか確認するよう努めている。また、何かあればいつでも伝えて欲しい事も話している。	運営推進会議への参加を重点とするほか、訪問時やケアプラン作成時の協議など、意向反映の機会を広くとらえて対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議やフロア会議で、意見等を聞く機会はあるも、反映されるまでに至っていない。	各2ユニットの会議を軸に月例会議、ケアカンファレンス会議等運営状況の合意を図り、年2回の人事考課の目標課題と成果の個別面談など、意見や業務上の提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回個人面談を実施しており、話を聞く機会を設けている。また、勤務の合間等随時職員の話聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回人事考課を実施。また、採用時研修他、法人内で研修を実施しており、参加を呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の管理者連絡会やケア連絡会に参加し、グループホーム関係者の他、居宅や病院の職員と交流する機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅に伺い、お話を聞くほか、入居当初は特に本人の話を聞くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも、入居前にお話を伺うほか、入居してからも、要望等があればいつでも話して欲しいことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にもアセスメントを行い、必要なサービスを提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の重い入居者が多いが、小さなことでも、本人が出来ることを見つけていくよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでもご家族に報告や相談するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様面会時は、居室やフロアなどその方が過ごしやすい場所で過ごしてもらっている。	家族の面談の機会などを大切にすると共に、季節の行事や関わりある飾り付けなどで、個々の想いや馴染みの支援の工夫に努めている。	計画的な見学や身近な季節の変化を楽しむ機会など、馴染みの領域を広める企画の検討を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の時間も大切にしながら、適宜間に入っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、何かあれば相談して下さいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにて検討しているも、センター方式の利用などで、もう少し具体的な意向の把握に努めていきたい。	個々のアセスメント資料を軸に、日常動作の観察や意向・希望を把握して、利用者本位な支援に努めている。	カンファレンス会議等で個別の解決課題をよりよく共有するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後も本人、家族を中心に生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員により、「気づき」に差があるため、カンファレンス等で把握できている内容を確認し、職員で共有できるよう努めたい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで職員が話し合っている他、随時家族に相談したり、要望を聞いている。	利用者個々の心身の変化に応じた介護計画の作成・変更を各職種を通じて行い、家族の意見・要望を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を記録に残しているが、気づきや工夫まで記録出来ておらず、個人差もあり、差を埋めていくよう努めたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は既存のサービス内での支援が中心になっているが、今後はサービスの多機能化も考えていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内で完結していることが多く、今後は地域資源に目を向け、活用できるよう努めていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医が中心も、本人・家族の希望があれば、適宜、他の医療機関への受診を支援している。	個々利用者のかかりつけ医を軸に、契約時に意向を把握して対応している。また心身の変化に応じて、家族等と協議してかかりつけ医を選択している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問日に口頭で伝えるほか、医療連携のノートを用意しており、気づいた職員が不在でも訪問看護師に伝わるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、担当のソーシャルワーカーや看護師と密に連絡を取り、必要に応じて、主治医からの説明に同席させてもらい、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明している他、状況に応じて、かかりつけ医とも話し合いが出来るよう体制を作っている。	重度化や終末期のあり方については、契約時に対応指針に基づき承諾を得て、必要に応じた医療等関係機関対応ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるも、定期的な訓練は出来ていない。その都度の対応になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練は行っているも、それ以外は出来ていない。また、地域との協力体制も出来ているとは言えない。	ホームは耐火構造、3階建てで、各種の防火等の設備を完備し、年2回の想定した災害訓練を実施している。食料等の備蓄にも配慮しつつある。	地域との協力協議は困難状況だが、今後とも、消防当局とも相談するなど、地域でのホームの強み(給食・集会・介護機能等)を活かす協議を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには全職員が注意し、対応している。	事業所理念を基本課題として、職員相互が経験を交流して学びあい、利用者の誇り、個性の尊重などに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランの確認の際に聞いている他、日常の会話にも注意はしているも、自己決定出来る場面が少ない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にしているも、職員のペースで進んでいることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容時は、その人に合わせた髪の長さにしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	特定の利用者になっているが、準備や片付けを一緒に行っている。食事は全員で食べている。	楽しい、安全な食事のための準備、配食への心がけ、必要な介助、話しかけ、励ましなどに留意して食事の支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて食事形態を変えている他、一回の食事量が足りない方は補食等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しているが、うがいや義歯を外すなど出来るところはやっていたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレ誘導で対応しているが、介護度が重い方にはその方に応じた排泄の間隔でおむつ交換を行っている。	利用者個々の日常の生活を記録に留め、職員相互が共有して、排泄の自立支援となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルトなどの乳製品を食べてもらっている。訪問看護師に下剤の使用について相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は職員の都合も、入浴時に入浴剤を選んでもらったりしている。	入浴の時間を一応設定しているが、個々の状況に弾力的な対応が出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝が長くなり過ぎないように注意しながら、適宜休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアに用意しているファイルに、お薬情報も入れており、職員がいつでもチェック出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所を手伝ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の不足により、外出支援がほとんど出来ていない。家族の協力がある方しか、出かけられていない。	外出支援は、職員間でも積極的な具体的協議が進まない状況にある。家族の協力を得ながら対応している。	個別的な対応(短時間の公園散歩など)と積極的な職員の姿勢(やる気と工夫)、ボランティアの対応、法人内事業所連携などの検討を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持てる方には持ってもらい、買い物にも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける入居者様には支援している他、電話も訴え時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や気温には配慮している。お花を飾るなど、もっと季節感を取り入れていきたい。	集中暖房による室温・湿度管理、採光等に留意した穏やかな室内環境にある。また、季節の催しに応じたモールやリースの飾りなど、居心地よい居間作りを工夫している。トイレ・浴室などの利便性も高い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	三人掛け用のソファの他、一人用のソファや椅子を用意しており必要に応じて使い分けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を持参して頂くほか、昔の写真を飾ったりしている。	居室は基本的な備え付けのベッド等がある。利用者の意向に沿い、家族と相談して馴染みの品々を飾るなどの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前に表札を用意している。また、廊下で歩行訓練をしている利用者があり、安全に歩けるよう何も置かないようにしている。		